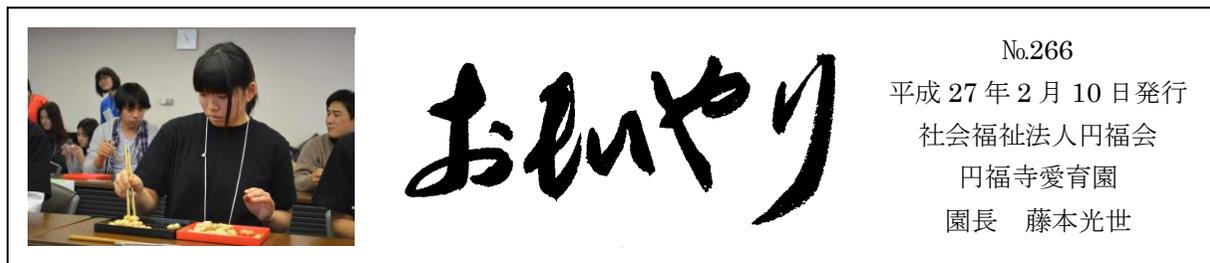


川口市で開催された、第1回箸りんぴっくに参加し、優勝することが出来ました。



祝 国際箸学会主催 第1回箸りんぴっく大会 優勝 園長 藤本光世

1月31日に埼玉県川口市の川口総合文化センター「リア」で開催された、国際箸学会主催「第1回箸りんぴっく大会」で、当園の児童は個人戦、団体戦共に優勝しました。世界新記録でした。

当園は箸りんぴっく大会を5年前から開催し、そこで箸ピー競技を行ってきました。昨年の様子は、ホームページをご覧ください。

http://enpukuji-aiikuen.com/letter/past-event_2014_a.html#ltt-evn001

今回の国際大会では、5年間の積み重ねと日頃の練習の成果がいかに発揮されました。会場の皆さまから、子ども達の箸づかいとスピードとマナーに驚きと称賛の声をいただきました。

今回出場できたのは、5名の園児でした。選抜に当っては記録とともに、あいさつやおまいの態度や練習の姿勢など、普段の生活や心を重視しました。選ばれなかった子は、選ばれた子を温かく送り出してくれるようにしました。選ばれた子は、選ばれたことを感謝し、一緒に練習して温かく送り出してくれる仲間感謝できるように、心を育てました。

児童養護施設の児童が、一般の皆さまと一緒に大会で競い合うことは、日本の歴史の中で初めてではないでしょうか。どちらかと言うと、顔や名前を隠し、表舞台に出さず、目立たないように、悲劇のヒーローか憐みの対象として、社会の皆さまから偏見の目で見られることが多かったように感じます。それが、全国の皆さまがおいでになった大会で堂々とプレーし、抜群の成績と称賛をいただくことが出来たのです。なんと素晴らしいことではないでしょうか。このような機会を与えて頂いた国際箸学会の会長の小宮山様には、感謝の言葉もありません。ありがとうございます。

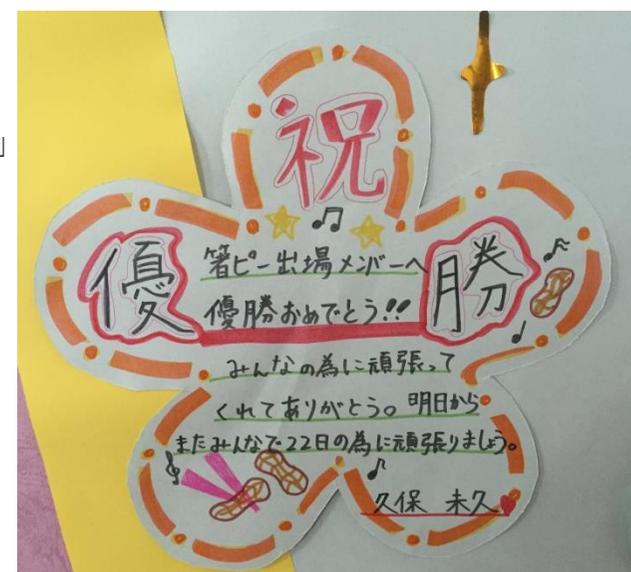
第1回箸りんぴっく大会の経験は、出場させていただいた選手にとって一生の宝と自信となるで

しょう。そして、出場しなかった子ども達にとっても励みになったでしょう。来年も優勝目指して、当園の子ども達の箸マナーを立派にし、子ども達の心を育てていきたいと思っています。ありがとうございました。

第1回 国際箸リンピックに参加して

副園長 青谷 幸治

去る1月31日、埼玉県川口市において国際箸学会主催の第1回国際箸リンピックが開催されました。当園でも今年で5回目を迎える箸ピー大会に向けて毎日練習をしていたこともあり児童の参加を決定しました。参加児童は5名で選考基準は記録を伸ばしていること。規則正しい生活ができていること(周りの手本になること)を条件に子どもたちに提示しました。どの子も大舞台でやってみたくてという思いが強く、日々の練習にも力が入りました。また学校や園での生活も子どもたちのやる気が伝わりました。そして本番前日を迎え夕方のお参りで私から今回の選考についてと国際箸リンピックへの望み方を説明しました。参加が決定した児童は、自分の力だけでなく皆と日々練習したことを忘れず皆の気持ちを受け止め参加すること。そしてたくさんの参加者の中で一番礼儀正しく、仲間と協力して絶対勝ちにいくことを伝えました。逆に参加できなかった子は、自分の思い通りになれないことで腐ったり、投げやりにならないこと。参加が決まった児童を心から応援すること。そして今回の悔しさを忘れず来年こそ自分が参加するという思いを持ち続けることを約束しました。園長先生から参加児童の発表をしていただきました。5人が前に並ぶと全員が気持ちよく拍手で送り出してくれました。園長先生から「皆が毎日一緒に練習し競い合った結果、記録を伸ばせた。皆の力があってこそ参加できることを忘れないように」と言われました。参加の有無に関わらず子どもたち全員の心は優勝に傾きました。そして本番。愛育園全員の気持ちが後押しして個人戦1~4位独占。団体戦優勝。みごとな成績をおさめました。夕方4時に報告の連絡が入りました。これからが大変です。残った児童のための教育が始まります。夕方のお参りで、どうやって出迎えるか?皆で話し合いをしました。「応援メッセージを書いた横断幕を作ろう」「金メダルを作って渡そう」「部屋の電気を消して玄関に入ってきたら皆でおめでとうを言おう」など子どもたち自ら考えワクワクしながら話してくれました。どの子どもどうすれば愛育園のために頑張ってきた子どもたちにどんなサプライズなら感動してくれるかを本気で考えてくれました。ほとんどの意見を採用しました。玄関ロビーでは全員集まり即席の報告会です。参加児童から皆へ感謝の



お礼と応援してくれた皆の笑顔で感動の報告会になりました。参加した児童はいつもと違う緊張と戦い良い経験ができました。園に残った児童は報告を心待ちし仲間を応援し感謝されるという、人の為につくすことの大切さがわかった行事だったと思います。行事はただ単体で行うものではありません。全て心を育てることであり、それが普段の生活に生きなければ意味がありません。今回参加しなかった児童であれ逆の立場で教育として導くことで全ての児童が清々しい思いになったことは間違いありません。最後に応援メッセージの中に「愛育園全員のために戦ってくれてありがとね。次回は園の箸ピー大会頑張ろう」とありました。心が育っていることを実感しました。

国際箸学会の皆さま、子どもたちに参加させていただきありがとうございました。

第1回 箸オリンピックへの参加

保育士 富沢正樹

3 学期、愛育園の主な行事はというと、「箸ピー大会」があげられます。「箸ピー大会」とは、箱に入った落花生を箸でつまみ、カラの箱に移動していき、移動できた個数を競う大会です。左右の手それぞれ1分間ずつ挑戦し、合計の多い子が優勝となります。

この箸ピー大会、今年で5回目を迎えるのですが、昨年、第4回の箸ピー大会では、このゲームの発案者の「国際箸学会」の方々をお招きし、大会に参加して頂きました。すると、この度、「国際箸学会」の方々が「第1回 国際箸オリンピック」を開催される運びとなり、愛育園にも参加の声をかけて頂きました。

会場が遠方ということもあって、全員は参加できませんので、園からは5名の児童を選抜して参加することになりました。そして、その5名の選抜方法を園の「箸ピー大会」での成績上位者から選ぶ事に決め、児童全員に告知しました。ただし、「箸ピーの記録だけでなく、普段の生活も一生懸命にできる子」と付け加え、記録と生活の両面から選抜する事にしました。1月31日の「箸オリンピック」の一週間前に「箸ピー大会」を予定し、練習は12月25日からスタートしました。

園で行っている「箸ピー大会」は年々、盛り上がりを増しておりまして、子ども達にとって楽しみであり、夢中になれる事であり、レベルもどんどん上がってきました。2年前の優勝者の記録が207個だったのですが、(やってみるとわかりますが、相当にすごい記録で、当時、段違いの成績で優勝しました。)今年も、200個を超える児童が続々と出てきております。みんな選抜メンバーになる為、園の「箸ピー大会」で優勝する為、毎日、一生懸命に練習し、まさに



切磋琢磨しながら記録を伸ばしています。(毎日の成果を大きなグラフを作って記録していますが、用意した目盛りでは足りない子が続出中です。)

残念な事にインフルエンザの影響で、「箸ピー大会」は2月に延期になってしまいましたので、「箸オリンピック」の選抜メンバーは練習開始から一か月の記録と生活の様子から決めました。5人とも、「国際箸オリンピック大会」に出場したいという思いを行動に表し、練習と普段の生活に励んだメンバーです。

「箸オリンピック」の前夜、選抜メンバーの高校3年生の男の子は、メンバーに選ばれた事を喜びながら、園長先生や他の児童に対して感謝の言葉を口にしていました。「こういった機会を作ってもらった事にありがとう。自分がメンバーに選ばれるまでの記録が出せるようになったのはみんながライバルとしていてくれたおかげ。」そんな彼の気持ちを理解してか、惜しくもメンバーに選ばれなかった子たちも、清々しく選抜メンバーたちを応援してくれていました。

当日、みんなでお揃いの「はきものTシャツ」を着て心一つに会場に入りました。みんな緊張した顔つきで本番を待ちます。いよいよ競技がスタートすると子ども達は素晴らしい力を発揮します。「練習してきた力を出したい。」「良い結果を出したい。」「送り出してくれたみんなにいい報告がしたい。」そんな気持ちが伝わるくらい真剣な顔で、ひたすら手を動かします。もしかすると緊張に負けて、力を出せない事があるかもしれないとも思っていたのですが、緊張なんかには負けないだけの練習と思いを子ども達は身につけていました。



その結果、個人戦で1位から4位まで入り、団体戦も優勝することができました。競技が終わると、ようやく緊張が解け、安堵の表情を見せます。結果もちろんですが、何より力を出し切れたことが嬉しかった様でした。参加したメンバーがそれぞれに本当に良い経験をさせて頂きました。

「園に帰ったら良い報告ができる」そのこともまた嬉しかった様で、喜び勇んで園に帰ると、何故か園内が静まり返っており、何かトラブルでも起きたのかと事務室に入っていくと青谷副園長と高校生の男の子2人が神妙な顔つきで話し合いをしていました。話し合いを終え高校生2人が退室し、その後、重苦しい空気の中での報告となってしまいました。なんだかとても寂しい気持ちになり、退室しようとドアを開けると、なんとドアの前に留守番の児童が全員集まっていて、一斉に声をそろえて「優勝、おめでとう」と言ってくれました。更によく見ると、1人1人がメッセージカードを書いてくれていました。おまけに選手1人1人に手作りの金メダルまで用意してくれていて、寂しい気持ちが一転、胸が熱くなりました。

参加した児童は留守番してくれた児童を思い、力を発揮し、留守番してくれた児童は参加した児童にまごころからなる応援をしてくれる。本当に素晴らしい行事だったと思います。

2月22日は、園の「第5回 箸ピー大会」です。この「箸リンピック」が更に大会のモチベーションを上げ、今日も子ども達はせっせと練習に励んでいます。

国際箸学会の皆様、良い機会を与えて頂きありがとうございました。

箸りんびっく

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

1月31日に埼玉県川口市で行われた箸りんびっくに参加してきました。この箸りんびっくに出場するまでにはたくさんの出来事がありましたし、当日もたくさんのドラマがありました。この大会に出場できるのは5人です。この5人に選ばれる為に子どもたちは毎日箸ピーの練習に励んできました。また記録が良ければ選ばれるというわけではありません。もちろん一生懸命練習に取り組んでいる事も大事ですが、日々の生活の様子もとても大事です。小学校4年生の女の子は去年愛育園で行われた箸ピー大会で優勝。今年も優勝を目指し日々練習を頑張っていました。そんな中園長先生から、この大会の話聞き自分もこの大会に出たいと思うようになりました。どうやったらこの大会の選抜メンバーに選ばれるかを私に聞いてきた事があります。生活の中で特に問題もなく学習も一生懸命取り組んでいます、お参りの声が小さい……。そこで、今回この機会をうまく活用し、お参りの声を大きくしてみようと話してみました。すると話した日からだんだんお参りに対しての姿勢が変わってきたのです。それだけこの児童の大会に対しての真剣な気持ちが伝わってきました。大会前日。夕方のお参りで園長先生から大会の選抜メンバーを発表して頂きました。選ばれた児童は嬉しい気持ちとプレッシャーとさまざまな気持ちがあったと思います。惜しくも選抜に入れなかった児童は悔しい思いもしたと思います。夕食後選抜メンバーを集め、決起集会を開きました。そこでは子どもたちに、選抜されたのは自分たちの力だけではなく、毎日一緒に練習してくれている仲間がいるから。そこを忘れず感謝し、頑張ってくるよう園長先生から話をしてもらいました。最後に自分達の大会に向けての決意を発表し、当日を迎えました。



移動の車内ではまだ緊張した様子もなくリラックスした雰囲気でしたが、だんだんと会場に近づいてくると、子どもたちの口数も減り始め、私にまで緊張の雰囲気が伝わってきました。少し早めに会場に着いたので練習を少しやり、いざ本番！！まずは個人戦からスタートです。競技のルールはほぼ愛育園と同じでしたが、若干違う部分もあり、戸惑う所もありましたし、大勢の人に見られての競技だったので緊張していました。予選は2回行われました。一回やると緊

張も少し和らぎ練習の成果が出せていました。子ども達の豆を運ぶスピードの速さには周りも驚きの声が上がっていました。予選2回をやり終える頃には今までの記録を超すベスト記録を出していた児童もいました。

次は団体戦です。団体戦は一人50個の落花生を箱に移し次の人に回す。5人目が運び終わったところで、終了となるタイムレースです。スタートと同時に箸を持ち一つ一つ丁寧に豆を運んでいます。自分の出番が終わると次の人の応援をし、みんな最後まで仲間の応援をしていました。記録は2分13秒で予選トップでの通過です。そして先ほど行った個人戦の決勝。上位6名が通過することができます。いよいよ発表の時。みんな自分の名前が呼ばれるかドキドキしながら待ちました。一位円福寺愛育園 Yさん。2位円福寺愛育園 Wさん。3位円福寺愛育園 Sさん。4位円福寺愛育園 Hさん。すごいことです。なんと4名も上位に入ることができました。惜しくもS君は上位に入る事ができませんでしたが、自分の分も仲間に頑張ってもらいたいという気持ちで一生懸命応援していました。決勝戦となるとさすがにみんなも緊張した様子でした。決勝は一発勝負。「よい始め。」の合図で一斉に箸を持ちものすごいスピードで豆を移動します。ただやはり緊張しているようで、いつものペースが出なかったり、手が震えて豆をなかなか取れない姿もありました。床に豆を落としてしまう児童もいました。でも最後まで諦めません。左手も同様です。結果発表の時が来ました。なんと優勝は予選を4位で通過したH君！！この瞬間H君はガッツポーズ。絶対優勝するといっ



ていた言葉が叶ったのです。準優勝はWさん。3位はYさんでした。それぞれ仲間の成績を聞き、みんなで喜び合いました。そして団体戦も決勝戦を行いタイムは2分12秒。予選のタイムを1秒縮め優勝です。表彰式では団体・個人とトロフィーをもらう事が出来ました。また皆で前に並んでいる姿を見て私自身も本当に嬉しくなりました。子ども達の表情を見てみると、とても堂々としており、園の中ではなかなか見れないたくましい表情をしていました。帰る車内では本当にこんな良い結果が残せたのはみんなのおかげだねと話さず姿や、私たち引率の職員にも感謝しているという言葉が子ども達の口から出てきました。決して私たちが言わせた言葉ではありません。このような言葉が自然と子どもの口から出てくるという事は、今回のこの大会を通して、子ども達自身さまざまな事を感じた証拠だと思いました。自分だけの力ではない。周りの人の協力もあっての今回の結果が出せた。大会前日園長先生から話をされた事を子ども達自身が理解した瞬間でもありました。

まだまだ興奮が収まらない中愛育園に到着。大会の結果を伝え、職員室を出ると、そこには「優

勝おめでとう！！」と書かれた紙を持って皆が待っていてくれました。本当に嬉しかったです、みんなで戦っていたんだと改めて感じる事ができました。この大会を通して普段なかなか経験のできない事を子どもたちに感じてもらう事ができ本当に良かったです。

箸りんぴっく 児童感想

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

埼玉県に行って、箸りんぴっくの大会に行ってきました。僕は緊張しすぎて手ががちがちでした。団体戦では円福寺愛育園が優勝でした。本当に嬉しかったです。愛育園に着いて今日の結果発表をしました。園で応援してくれていたみんなから金メダルがもらえてとても嬉しかったです。一緒に戦った Yくん Nさん Hさん Sさんにはとても感謝しています。それから引率してくれた富澤先生石崎先生にも僕は感謝しています。本当にいい体験ができました。ありがとうございました。(中3Y・S)



1月31日に行われる国際箸りんぴっくの選抜メンバーに選ばれました。埼玉県に着くととても緊張してきました。予選1回目は右手150個左手90個で合計240個でした。2回目は右手135個左手85個で合計220個でした。この時は最高記録が出せませんでしたが、いつものように頑張ってきました。個人戦の決勝では愛育園のメンバーが4人入っていて私は嬉しかったです。決勝戦が始まると急に緊張してきて、手足が震えました。「よーいスタート」で始まりました。50個いってから豆が床に落ちて3秒減ってしまいました。一生懸命頑張りました。決勝でも最高記録が出せませんでしたが最後まで頑張れて良かったです。2月22日の愛育園の箸ピー大会では絶対優勝したいです。(小4W・H)

1月31日に埼玉県川口市で国際箸りんぴっくが行われました。私は箸りんぴっくの選抜メンバーに選ばれました。会場に着くと少し緊張してきました。まだ時間があったので、練習をしていると周りから「すごいね」「早いね」という声が聞こえてきました。個人戦の予選では1回目の合計が223個、2回目の合計は241個でした。2回目の予選の記録は今までで最高記録でした。私はとても嬉しかったです。次は団体戦です。自分の順番が回ってくると緊張し、うまく豆がつかめませんでしたが、1回目より2回目のタイムが1秒縮まりました。そして次は個人戦の決勝です。決勝戦が始まると緊張しました。結果は3位でした。みんなもいい結果が出て良かったです。団体戦でも予選よりまたタイムが1秒縮まり優勝しました。とても嬉しかったです。私は箸りんぴっく大会で最高記録が出せたこと、3位という結果でしたが、最後まで諦めずに力を出し切る事ができて

良かったです。園に帰ってきて事務室から出ると皆が「おめでとう！！」と言って迎えてくれたのでとても嬉しかったですし、手作りのメダルまで貰え嬉しかったです。最後に箸りんぴっく大会で選抜メンバーに選んでくれとても感謝しています。いい経験になりました。(中3Y・N)

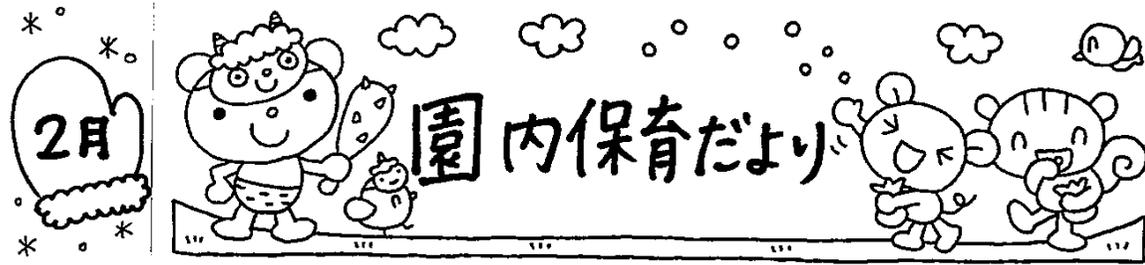


5人のメンバーで箸りんぴっく1位を目指す大きな大会がありました。自分はその選抜メンバーに選ばれるとは思っていませんでした。僕は選抜メンバーも選んでくれた園長先生や色々な先生に感謝しています。本当にありがとうございました。箸りんぴっく当日。僕は絶対優勝すると言って埼玉県を目指しました。車に乗っている時から緊張していましたが、心の中で絶対優勝する、それだけを考えていました。会場に早く着いたので、勝てるように練習をしました。会場の中に入る時選抜メンバー5人が並び大きな声であいさつをしてから入りました。会場にはたくさんの方がいてびっくりしたし、プレッシャーが掛りました。でも自分の気持ちは負けていませんでした。個人戦の予選ではあまりいい結果が出せませんでしたが、決勝に選ばれ、信じられないほど嬉しかったです。こうして決勝までいけたのは、愛育園に残ってくれているみんなの応援があって、園長先生の応援があって、園の先生の応援があって決勝までいけました。決勝では本当に接戦でした。決勝戦ではとてもいい結果が出て合計で232個でした。最高記録です。また個人戦、団体戦全てにおいて、優勝しました。本当にみんなでいい結果を残せたのはみんなのおかげです。本当に感謝しています。ありがとうございました。(高3H・Y)

しめ縄集めがありました

あおぞらホーム 山口 亮

朝早くから子ども達の生活している西横田では1月12日にしめ縄集めが行われました。昔から西横田地区ではリアカーを使ってしめ縄を集めているという事もあり、当日はリアカーと地区の方の軽トラックを使ってのしめ縄集めとなりました。その中でも次年度の地区児童会長になる小学校5年生のYくんは「最後までリアカーを引っ張っていくよ」と言い重くなっていくリアカーを最後まで1人で運んで行く姿がありました。以前までのYくんならこういっためんどうかい事はやりたくないの一点張りだったのが、こういった姿になって現われてくると成長した事を感じる事ができました。他の子も地区にあるダルマやしめ縄を集める為に西横田を走って集めていました。最後には集めてきたダルマやしめ縄を地区の方と一緒に組み立てていきます。今年初めての1年生もお守りやダルマに紐を通して括り付けていました。午後にはその組み立てたダルマやしめ縄を焼き天に返し、その火で焼いたお餅を食べて1年間の健康を皆で祈りました。



3学期が始まりました!!

♪(水) 始業式

10日間程の冬休みがあり、お出掛けをしたり、美味しいものを食べたり、お正月遊びをしたりと、楽しく過ごした子どもたち。どの子も体調を崩したり、大きなケガをすることもなく、元気に登園してきました。

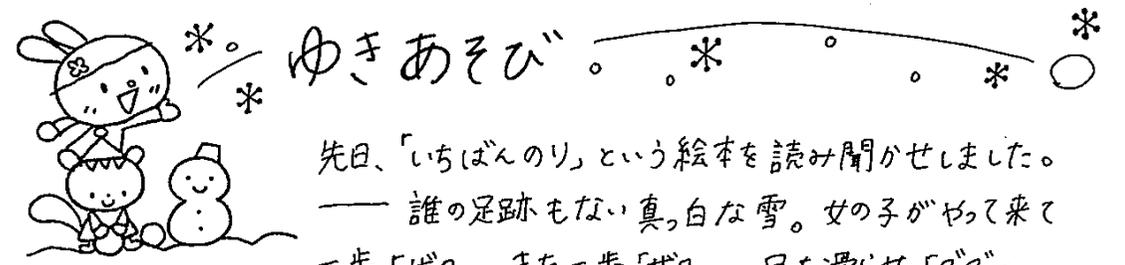
始業式では、園長先生にお参りをさせて頂きました。また、園長先生のお話の中では「お正月にみんなから年賀状が届いて嬉しかったです。今日は一人ひとりにお礼を伝えたいと思います」と、子どもたちを順番に抱き上げて下さいました。「〇〇ちゃん、ありがとう」と一人ずつ言ってもらい、子どもたちはとっても嬉しそうでした。

3学期は短いですが、一年間のまとめとなる大事な学期です。沢山の楽しい思い出を作るとともに、進級することへの期待を高めながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。年度末には一年前より一回り大きくなった姿が見られるよう、私たち保育者も一生懸命頑張ります!!



◇かるたをやったよ◇

今年、年長チーム、年中・年少チーム、未満思チームと3チームに分かれてかるたとりをしました。あるチームでは、保育者が読み札を読み、子どもたちが絵札をとっていたのですが、以前からよくかるたとりをしていたSくんはどんどんとり、Kくんは全くとれないでいました。保育者は「Kくんにもとらせてあげたい、頑張れ」と思いながらも、みんな真剣にやっていたので手伝うわけにもいきません。すると、Sくんが自分がとったかるたをKくんに渡しました。落ち込んでいたKくんは嬉しそうに「ありがとう」と言うと、その後、何枚か自分でとることができました。Sくんの優しさがKくんの気持ちをほぐし、みんなが楽しむことにつながったようです。また、みんながやるうね!!



ゆきあそび

先日、「いちばんのり」という絵本を読み聞かせしました。—— 誰の足跡もない真、白な雪。女の子がやって来て、一歩「ザクッ」、また一歩「ザクッ」、足を滑らせ「ズズー」。最後は雪の上に飛び込んで大の字で寝転がる—— そんな様子が描かれていました。「やってみよう!!」子どもたちの目はキラキラ。待ちに待った雪の日、ウェア、帽子、手袋、ブーツ…準備万端!! 皆で「せーのっ!!」と雪の上にジャンプ!! 足跡をつけたり、足音に耳を傾けたり、もちろん大の字で寝転がったり!

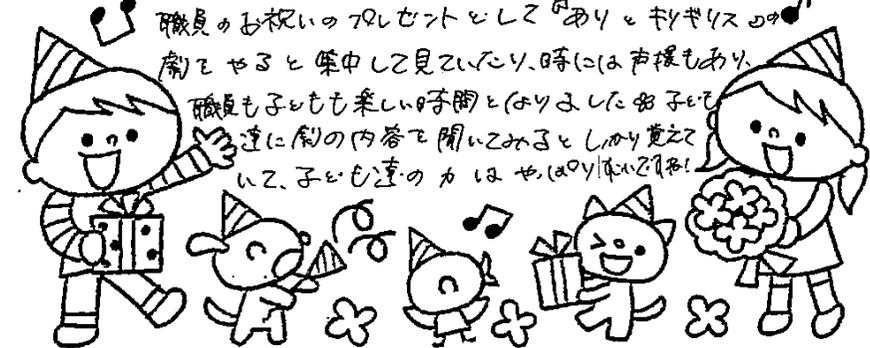
他にも氷を見つけ、氷屋さんをひらく子もいました。冬ならではの遊びを満喫中!!



1月☆誕生日会

1月は年長さん3人と年中のKくんの誕生日! (ZはかKくんはインフルエンザのため3人のお祝いもしました自己紹介や大きくなるには何が必要かを大きな声で言えとかなど、少しづつ年長さんらしくおこなうように感じました。

職員のお祝いのプレゼントとして「あり」のキラキラのカードをやる作業と集中して見ている時、時には声援もあり、職員も子どもも楽しい時間とほりました。お子と連に劇の内容を聞いてお楽しみし、お祝いしてあげたい。子ども達の力は、お祝いする喜び!!



お正月元旦行事

あおぞらホーム 山口 亮

大晦日の日、園に残った子と一緒に大晦日と元旦を過ごしました。去年までは大晦日や元旦は特にお正月らしい事をせず終わってしまったので、今年はしっかりやろうと前々から計画をしました。いつもなら年越しはカップ麺のソバを買ってきて、それを食べて終わりでしたが、今年は年越しの前にはしっかりとソバを茹でて用意をしました。子ども達もただ出された物を食べるのではなく、茹で上がったソバをお皿に盛り付けたり、汁を持ってくれたりと自分で食べる分は自分で用意している姿がありました。ソバを用意している間や食べている間は 1 年何があったかなど話したり、来年はここを頑張りたいという話も飛び交っていました。

元旦の朝、職員は少し早めに起きてお雑煮の用意をします。朝用意を始めると高校生の F さんが手伝いに来てくれました。職員 2 人ともお雑煮を作った経験はあまり無く、もちろん F さんでもありませんでしたが、F さんが味の様子をみてくれたり、お弁当を持っていく子も弁当を用意してくれたりと自主的に動いてくれたおかげもあり、お雑煮も完成。朝みんなが起きるとお参りをし横田神社へと全員で向いました。行き行く地区の人に大きな声で新年の挨拶をして、神社に着くと二礼二拍手一礼で参拝をします。お宮に入った後も、外でもしっかりと神社のマナーを守り正しく行う事ができました。園に帰り、冷え切った体をお雑煮を食べて温めて正月の朝を迎える事ができました。

正月行事

あおぞらホーム長 富沢正樹

年末年始は帰省する児童が多く、園の中は人数が減った分、いつもより静かで落ち着いた雰囲気の中でゆっくりと時間が流れていきます。個人的にはその静けさが寂しい感じたりもするのですが、こういう時は、普段以上に子ども達と関わりを持てる機会と心得て、行事を中心に子ども達とたくさん時間を共有します。

今年のお正月は、1 日は昼ご飯と夕飯を子ども達と一緒に作り、夕飯前にはみんなで銭湯に行き、2 日は映画館に出かけました。

1 日は午前中から、昼ご飯の手巻き寿司と夕飯のキムチ鍋の材料を中高生と買いに行きました。さすが中高生で、値段や賞味期限を見てテキパキ買い物カゴに入れていきます。「ゼリー買って行ったら〇〇ちゃん(幼児さん)喜ぶよね」と、自分の好みよりも年下の子を優先する高 3 の女の子。思わず感心します。

手巻き寿司は納豆やツナに加えて、ハムやカニかま、から揚げにチーズなど、一風変わった具材を用意しました。準備に時間がかかるかなと思いきや、ここでも中高生が中心となってわずか 15 分で「いただきます」までの準備ができました。

色んな具材を用意した手巻き寿司は好評で、あっという間に具も米も海苔も食べきってしまいました。

夕方にはみんなで広徳の湯(銭湯)に行きました。日ごろはあまり銭湯に行く機会が無く、知らな

い人たちもが大勢いる中で最初は緊張していた様子でしたが、徐々に慣れてくるとのんびりお湯に浸かり、たっぷり 1 時間入浴しました。

園に帰って来て、「さあ、これから夕飯の準備だ」と思っていると、アルバイトから先に帰っていた高校生の S さんがキムチ鍋の下ごしらえをしてくれていました。S さんはアルバイトの為、銭湯にいけなかった事がたいそう残念だった様子でしたが、みんなの為に夕飯の準備してくれたことが私はとても嬉しく感じました。

夕飯は皆で談笑しながらとても楽しく食べました。あまりの楽しさに時間を忘れて食事をしていたら、夜 8 : 30 をまわっていました。幼児の K ちゃんは就寝の時間になり、部屋に戻そうとすると、急に大泣きし始めてしまいました。楽しい雰囲気の中、一人外れるのが嫌だったのかなと思います。

翌日 2 日には、長野グランドシネマズに映画を見に行きました。大人気のアニメ「妖怪ウォッチ」の映画版が見られるとあって、朝からウキウキしていました。いざ映画館に向かうと途中道が混んでいて、到着したのが開演 5 分前になってしまいました。走りたい気持ちを抑え、周りの人に迷惑にならない様に気をつけて早歩きをする子ども達。よっぽど楽しみにしていたのだなと思いました。映画がはじまると大好きなキャラクターを巨大なスクリーンで見ることができ大満足だったようです。

今年のお正月は、楽しいのはもちろん、子供の成長を垣間見れたお正月でした。「園のお正月楽しい」という児童が増えてきています。来年も子ども達が喜ぶお正月行事を考えていきたいと思いません。

祝！！成人式

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

今年もまた愛育園から成人式を迎えた児童がいました。S さんは現在高校 4 年生です。成人式を迎える前は、振袖は着ないでスーツでいいと言っていたのですが、だんだんと日にちが近付くにつれ、やっぱり着物が着たい！！ということで、振袖を着ることになりました。レンタル代や着付け代、ヘアセット代はすべてアルバイト代を貯めた所から出しました。立派です。晴れ姿を皆に見てもらおうと、「きれい！！」という歓声が上がりました。園長先生と写真を撮り、まごころホームの皆と写真を撮り・・・。



皆から祝福され本当に嬉しそうでした。また昼食は調理の先



<http://enpukui-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

生方にも協力して頂き、スペシャルメニューを囲み皆でお祝いのスタートです。Sさんからも一言話をしてもらい「社会人として責任のある行動をしたい」と発表してくれました。Sさんの言葉を聞き、成長しているなど感じ、嬉しく思いました。皆でお祝いができ本当に良かったです。成人おめでとう！！



どんど焼き

1月12日、西横田地区にてどんど焼きが開かれました。午前中に地区のみなさんと一緒に集めたしめ縄や松飾りは夕方になると大きな大きな塊になっていました。園の児童はおもちを焼くために、アルミホイルでおもちを包み、いざ出発です。

到着してすぐに火入れが行われ、パチパチと音を立て燃え上がります。それまで寒さに震えていた子ども達も、大きな火のおかげで暖められました。

火が高く上がっている中、児童の書いた書初めが火中に入れられ、空高く舞い上がりました。

火が強くなるにつれ、ダルマが転がり、竹がはじけ、子ども達は大喜びです。そして火が弱まりおきになった所でお餅を焼き始めました。じっと待てる子と、何回も何回も外に出し確認する子と様々でしたが、みんな上手に焼けました。焼けたお餅は、職員と参加できなかった児童に振舞われ、おいしく頂きました。

どんど焼きが終わったとき、ある児童が言いました。早く来年になって、どんど焼きやりたい！！と。可愛らしい一言に笑みがこぼれてしまいました。

愛育園の職員になって

調理員 宮澤まき江

私は昨年11月27日より愛育園での調理のお仕事をさせて頂くことになりました。児童養護施設とはどんな感じだろうかと不安を抱きながら初日を迎えました。調理の先生方は皆とても温かく受け入れてくださいました。まず驚いたことは衛生面の徹底さでした。調理に携わる者としてあたりまえのことですが、何事も怠ることなくしっかりされています。食事作りも地元の野菜をふんだんに使われ、しっかり手づくりし提供していることに感心致しました。

児童との対面では、この年齢にして心臓が前に飛び出すのではと思うくらいドキドキ感でいっぱいでした。幼児さんから高校生まだが共に食卓を囲み感謝のあいさつから始まる食事は、一人も残すことなく、皆揃って「ごちそうさま」に終わり、食器を個々に戻し、テーブルをきれいに拭いてホームに戻る姿には涙してしまいました。朝6時30分、今の時期はまだ暗いためか、まず9名の

保育士 酒井悠紀



(平成27年2月10日発行 月刊「円福」463号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

幼児さんが「おはようございます」「こんばんは」と言いながら入ってくる様子も感動以外の何物でもありません。園長先生がおっしゃる児童養護施設の目的は子ども達を立派に自立させることであり、自立の一步が『朝の起床、それも自らが起床すること』『今忘れ去られている行事をこなすこと』本当に大切なことだと思います。

一般家庭で今決まった時間にしっかり朝食を摂っている家庭はどのくらいいるのだろうか？そして行事もだんだんに簡素化から忘れ去られている昨今、園では12月だけでも児童はさまざまな体験をしています。クリスマスでは子ども達には知られないように、イルミネーション創りをし、喜ぶ姿を想像しながらワクワクし作られた先生方の努力で体育館に点灯されたときは、園全体が一つになっていました。餅つきも、昔はどの家でも杵と臼での餅つきで、その蒸したてのお米のおいしさ。今、どれだけの人たちが知っているのだろうかと思う中、園の子ども達は体験している素晴らしさに、一つ一つ感動しています。

私のここでの役割は、先生方・児童の皆さんに少しでもおいしい食事を提供することと精進してまいります。よろしくをお願いします。

愛育園の職員になって

調理員 島田結季

昨年、3月に短大を卒業し、ご縁があつて昨年の11月より円福寺愛育園の調理員として入社しました。島田結季と申します。

私は、幼い頃から子ども達と接することや料理を作ることが好きで、将来、学校給食やセンターに勤めたいと思っていました。しかし、自分の体や能力によって希望する職場が見つからず、転々としていました。そんなとき、自分が希望する愛育園に巡り逢うことが出来ました。

調理員の職員になって約3ヶ月になります。職員になり初めの頃は、何もわからず不安でしたが、調理の先生にやさしく親身になって教えて頂きました。私は、調理経験が浅く知らない料理が多いですが、日々調理の先生方に細かく丁寧に教えて頂きながら料理を覚えている最中です。

この給食では、調理場と食堂がカウンター越しになっており、調理をしながら子ども達の様子を見えたり会話をすることが出来ます。時には、食堂で一緒にホーム食や手作りのおやつを作ったりしています。

その日の献立メニューを実際に自分がつくり、その料理を子ども達と一緒に食べ味わえることが出来ます。自分が初めて作る料理は不安を感じますが、子ども達から「今日のご飯美味しかった、おかわり！明日のご飯なに？」と話しかけてもらうと不安から自信へと変わり嬉しくなり頑張ろうと思います。

私は、人より知らないことや覚えが遅く、更に自分の思い込みで失敗し、先生方にたくさんのご迷惑をおかけしてしまいましたが、周りの先生方のお陰で今の自分があるということに感謝しています。

まだ、子ども達の名前と顔がまだ覚えられておらず、早く覚え職員の先生方に負担かけぬよう一

生懸命努力していきたいと思っておりますので、ご指導宜しくお願い致します。

調理室だより 七草粥 鏡開き

調理員 伊藤慈子

「七草粥」とは、春の七草である セリ、ナズナ、ゴギョウ、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ を入れて炊いたおかゆのことで、毎年1月7日の朝に新年の無病息災・豊年を願い食べる行事のことで。

七草粥を食べる習慣は、もともと中国から伝わり江戸時代までに広く受け入れられたものとされています。寒さに耐える7つの草を食べることで、邪気から身を守り幸運と長寿を呼びこむと考えられていたようです。また、お正月の間の疲れた胃腸を^{いたわる}意味もあります。

愛育園でも、1月7日の朝食時に、刻んだ七草をさっとゆでておかゆに入れ、塩で味を調べて作った七草粥を食べました。『にがいー』と言っていた子もいましたが、今年一年、みんな健康で無事に過ごせますようにと願い、みんなちゃんと食べました。

「鏡開き」とは、お正月に神さまや仏さまにお供えした鏡餅を下げ、お雑煮やお汁粉にして食べる行事のことで。

「鏡開き」の「鏡」は円満を意味し、「開き」は末広がりという意味とされています。そして、また、鏡餅を食べることを「歯固め」と言いこれは、硬いものを食べ、歯を丈夫にして年神様に長寿を祈るためだとも言われているようです。

愛育園では、1月11日にお供えした鏡餅をほぐし、焼いて、お汁粉にしておやつの際に出し、みんなでおいしく食べました。

愛育園では日本の古くからの行事を、一つ一つ意味を知りながら、子ども達と一緒にやることをとても大切にしています。

インフルエンザ大量発生

保健係 武井萌

寒さが一段と厳しくなってきました。この時期になると、毎年インフルエンザ感染者が続出だと騒がれ、愛育園でもうがい・手洗い・アルコール消毒等、予防の徹底を行っていました。そんな中、小学生の中でインフルエンザ感染者が出てしまい、これは大変だと隔離部屋を作り、感染が広まらないよう再度予防の徹底を行っていましたが、2人目、3人目、4人目・・・とあっという間に感染が広まり、職員までもが感染してしまう事態になってしまいました。今期の感染者は職員もあわせ21名となり、入れ替わり立ち代り、今もなおインフルエンザと闘っている子がいます。幸いにも、皆1日、2日で熱も下がり、食欲もあって、重症患者が出なくてよかったです。早く全員の顔がそろってくれるといいなと願っています。



ホームだより

あおぞらホーム

保育士 近藤 典雄

新年が明けて一か月が過ぎました。子供たちもお正月を家に帰省したり、愛育園でお正月の行事を行いそれぞれゆっくと過ごせたと思います。あおぞらホームではインフルエンザが大流行し多い時で9人の子がかかり手洗いうがいを徹底させています。

三学期も始まり小学生は寒さにも負けず、残っている雪の上に乗ったり、雪玉を作ったりして学校に通っています。また帰ってきてからは宿題を済ませてから外に出て自転車をこぎに行ったり体育館で野球をやったりと元気いっぱいです。中学生も受験に向けてラストスパート、夕食後の学習の時間に談話室に来て先生と一緒に机に向かって勉強を行っています。あまり勉強の得意でない子も夜遅くまで希望の高校に入れるよう頑張っています。卒園を迎える子も学校と教習所とバイト先の往復です。新しい生活に不安を漏らす子もいますが、残り少ない園での生活で先生と一つ一つ課題をクリアしていき精一杯過ごしています。

まごころホーム

保育士 上原美恵子

楽しかった冬休みもあっという間に終わり子供達はおいしい物を沢山頂いたのか皆一回り成長したように感じます。3学期に入り小学生は学年のまとめの時期に入りましたので、特にそれぞれが苦手としている教科を中心に学習に取り組んでいます。特に6年生のYさんは卒業までのカウントダウンカレンダーを作ったり、卒業文集の制作にと忙しそうにしています。そして夜にはかるたやすごろく等この時期ならではの遊びで盛り上がっています。

中3のNさんはいよいよ高校受験まで残す所わずかとなり最後の追い込みに入っています。本児が志望している高校が例年以上に倍率が高いため不安そうにしていますが、とにかく自分を信じてベストな状態で受けられるように日々励ましています。

今春卒園を迎えるSさん、Fさんは着々と新生活に向けての準備を進めています。なごり惜しい気持は尽きませんが、彼女たちが不安な気持はありつつも前向きに進んで行こうとしている姿に心からエールを送りたいと思います。まだまだ寒い日が続きますが、子供達の体調管理に気をつけていきたいと思っております。

